

国語 — 岡山大学 2024 年入試問題分析 — 岡山進研学院

全体講評： 大問数・形式とも昨年並み。分量はやや減少し、難易度はやや易化した。現代文・古典ともに、本文は読みやすいが、設問意図を正確に踏まえ、本文をどこまで要約するのが決めにくい。特に小説文は解答内容はイメージできてまとめるに良かったかもしれない。古文は助動詞の意味をきちんと訳に反映できているかどうかポイント。問四がまとめるににくい。漢文は、基本句法の理解を踏まえて、文脈に沿って簡潔に状況を説明できる必要があった。解きやすいが、解答にまとめるににくく、差がついただろう。	試験時間	120分
	難易変化	易化／ やや易化 ／昨年並／やや難化／難化
	分量変化	減少／ やや減少 ／昨年並／やや増加／増加

大問	区分	出典・著者	分量・小問数・本文／設問特徴	レベル
一	評論文	『正倉院のしごと—— 宝物を守り伝える舞台裏』 西川明彦	4ページ。昨年より1ページ 減少 。19段落。本文の注＝5つ。小問5題。説明問題が減った分、記述量は大きく減少した。本文に即して説明する場合の要約の方法で差がついたと思われる。やや易。	
二	小説文	『すべて真夜中の 恋人たち』 川上未映子	8ページ。昨年より1ページ 増加 。小問5題は1題増加。本文は3場面に分けられた。問二・問三の「なぜ」問題は、原因理由ではなく状況の前提確認であり、記述のポイントをずらさないことが必要。	
三	古文	『宇治拾遺物語』巻十一 「白河法皇北面、 受領の下りのまねの事」	1ページ。本文13行で 大幅減少 。小問4題は変化なし。問一は基本問題で易。問二は状況から理由を答えさせる定番設問。問三は経緯を丁寧に確認すること。問四は本文のいきさつを踏まえた解答を。	★
四	漢文	『東坡集』 蘇軾	1ページ、小問4題と 大幅減少 。リード文が大きなヒント。本文の筋は捉え易い。設問では句形と用字に関する正確な理解が求められた。問二・四はやや書きにくい。問三の「如此」は基本中の基本。易。	★

学習指針： 現代文・古典ともに学校の教科書学習が有効な設問だった。評論では設問の意図を読み取るために、日頃から文章の要点を段落ごとに整理する練習を積み重ねておきたい。 小説は心情説明の理由 POINT をしっかり書くこと。 古文では特に状況理解のために、助動詞などの文法事項や古典常識をおさえ、教科書の「学習のねらい」や「学習のてびき」の考察に丁寧に取り組んでおこう。 漢文は書き下しを音読して独特の表現に慣れよう。	※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★★★ やや難 → ★★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)
---	---